第１回日・オランダ農業協力対話本会合の概要について

１．出席者

日本側：農林水産省（国際部、食料産業局、生産局、経営局、農林水産技術会議事務局）、農業・食品産業技術総合研究機構

蘭　側：農業・自然・食品品質省（農業自然総局）、在京オランダ王国大使館、ワーヘニンゲン大学研究センター

２．議事概要

（１）分科会報告

①第１回分科会（５月８日開催：販売力強化のための生産者組織のあり方）

近年、消費者のニーズや市場が大きく変化している中で、

・農業者が単に生産にとどまることなく、自立した経営者としてマーケットインの発想に立った生産・販売の取組を進めること

・輸出を含め、市場の開拓に組織的に取り組むこと

が農業者の所得確保と同時に、農業のビジネス展開を図る上で不可欠であることを両国で共有した。

②第２回分科会（10 月４日開催：産官学連携によるイノベーション、研究開発成果の生産現場への普及）

産官学連携による技術開発については、研究成果の実用化の観点から「産」と「学」の連携が必要で、その推進にかかる「官」の役割が重要との認識を両国で共有した。

施設園芸の技術開発の方向については、AI、ロボット、ICT 等の先端技術を活用した次世代施設園芸の研究開発に両国が取り組む中、お互いの研究の進捗状況等について情報交換を行った。

技術普及の課題については、日本では行政による公的な技術普及サービスを提供していること、オランダでは 2004 年に技術普及サービスを民営化したところ、有償化による農業生産者の意識の変化や知の連鎖による農業生産者とコンサルタントの両者のレベルアップなどが見られたことが報告された。

③第３回分科会（11 月 20 日開催：農林水産物の輸出促進に向けた取組）

両国の輸出促進政策について紹介するとともに、品目別輸出団体の取組についても互いに紹介した。その中で、輸出促進に係る官民の役割分担や品目別輸出団体の資金調達の仕組み等について、両国で情報交換した。

また、蘭側より研究機関における途上国への「技術や知識の輸出」の取組を紹介した。

（２）その他のテーマ等

①研究協力

農研機構とワーヘニンゲン大学研究センターによる研究協力の進展について報告し、中でも農研機構がワーヘニンゲン大学研究センターに配置するリエゾンサイエンティストについて紹介した。

②農業者の交流

国際農業者交流協会が 50 年以上に亘って実施している農業研修生のオランダへの派遣事業等について報告した。この中で、オランダや EU における外国人に対する労働許可の規制強化により、協会の農業研修生派遣事業に支障が生じないよう要請した。

③その他

・来年度の協力対話の議題等について、意見交換を行った。

・ワーヘニンゲン大学研究センターにおける農研機構のリエゾンサイエンティスト配置に関する覚書の調印式を行った。

＜本会合の様子＞

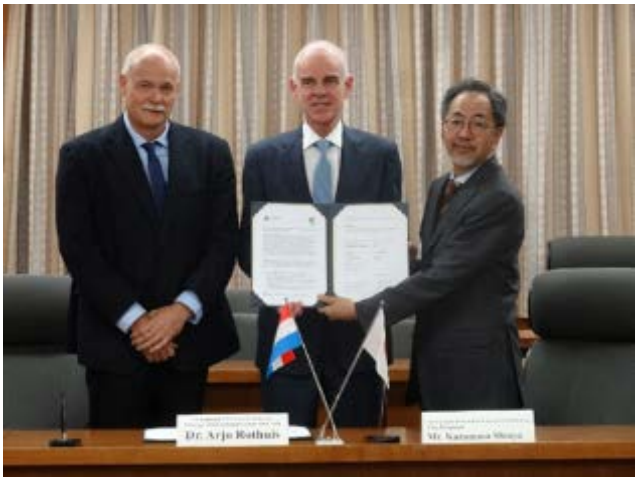
ヒーァフェルト総局次長による冒頭挨拶

鈴木審議官による分科会報告

山口国際地域課長による分科会報告

中澤輸出促進課長による分科会報告

来年度の議題について意見交換



調印式

第１回日・オランダ農業協力対話本会合出席者

日本側主な出席者

・農林水産省大臣官房国際部
　部長　渡邉洋一

・農林水産省大臣官房国際部国際地域課
　課長　山口博之

・農林水産省食料産業局輸出促進課
　課長　中澤克典

・農林水産省生産局
　生産振興審議官　鈴木良典

・農林水産省経営局就農・女性課
　課長　佐藤一絵

・農林水産省農林水産技術会議事務局
　国際研究官　鴨志田尚昭

・農業・食品産業技術総合研究機構
　理事　塩谷和正　氏

オランダ側主な出席者

・農業・自然・食品品質省農業自然総局
　総局次長　アルドリック・ヒーァフェルト　氏

・農業・自然・食品品質省農業自然総局
　ビジネス開発特使　フレデリック・フォッセナー　氏

・ワーヘニンゲン大学研究センター（WUR）
　国際協力アジア担当マネージャー　アルヨ・ロットハイス　氏

・オランダ王国大使館
　農務参事官　エバート・ヤン・クライエンブリンク　氏